

2学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

2 学年通信 86 号 通算 150 号

2016 . 12. 15 (木) 発行

俺のセンター試験

中村紘二郎

センター試験という私は自分の人生の転換点(ターニングポイント)となったということと、雪が降り足元が悪い中会場へ向かったことが印象として残っている。私がセンター試験を受けたのは、平成 21 年の 1 月のことで、山形市内に住んでいた私の受験会場は山大だった。N 高の教員たちが盛大に N 高生を激励していたのを脇目に、受験会場へと入っていった記憶がある。母校の学年団の先生たちも握手と『自分を信じる。』の一言で会場入りを激励してくれた。この言葉も、後に気づいたが、本当にいい言葉だと思う。この言葉はセンターが終わるまでの辛い道りを懸命に乗り切った 3 年生にしかわからない言葉だろう。

私が受けた科目は、得意だった順に英語、国語、化学、地理、物理、数学 IA・IIB だった。得点はそれぞれ 185(圧縮後)、171、74、65、56、101(合算)のトータル 652 点だった。(この赤裸々な点数をどう捉えるかは個人の感覚にお任せします。)当時の私にとっては、周りの友人たちが 700~750 だったこともあり、かなりのコンプレックスだった。(ちなみに、化学がそこそこ良かったのは当時教わった山口英雄先生のおかげに違いない。そして不思議なことに漢字が得意でなく、字がきれいでないのに国語はできた。ちなみに国語は古典が壊滅的で、漢文・現文はほぼ満点だった。)

受験科目で(あるいは授業で私が話しているのが)お気付きだろうが…そう、私は理系だったのだ。ただの理系ではなく、文系が得意で、理系が全然ダメ。すなわち、『なんちゃって理系』もしくは『理系潜伏文系』ともいうべき存在だ。こんな私を理系と呼んでいいかわからないが、理系出身の英語教師はかなり少ない。少なくとも私は職場で一緒になったことはない。理系で何が得意かと言われると間違いなくパソコン関係で、特にエクセルの数式はかなり得意だ。原田先生は秀和先生がいなければ私のところにパソコントラブルを持ってくるくらいだ。最近では二学年でも相談に乗ることが増えてきた。(自分の能力を他人のために生かせるのは英語という教科に限らず、非常に嬉しいことだ。)

なんでこうなったのかというと、『兄にできることは自分にもできる!』とっていたことと、一年時の科系選択で、必死に私を止める担任(教科は数学)の制止を押し切ったことにある。一年時担任の言葉はいたって正しかったことは、昨年母校で勤めた時に伝えることができた。話を少し戻そうと思う。

私はセンター試験を受けるまで実は工学系の進路を考えていた。(これもまた兄と同じ進路だ。兄は二歳年上だが、T 大工学部に入りそのまま院へ上がり今は神奈川に住み某大手通信機器会社でシステムエンジニアをしている。私とは頭の出来が違う。)しかし、点数が物語っている通り、私の工学部行きは現実的な進路ではなかったし、兄の背中を追いかけることは不可能だと早々に悟っていた私はますます理系教科の勉強に身が入っていなかった。『出来ないからしなくなる。』いわゆる負のサイクル状態だ。夢自体が極めて曖昧で、自分の理系教科に可能性を見いだせなかった私にはなんの強みもなかった。なん



の強みもなかったのだけれど、ひたすら勉強していた英語は点数が取れた。英語はやればやった分だけ伸びたし、二次対策講習は二次逆転も不可能で受ける予定もなかったのに、T 大の英語の添削を先生に頼んでやってもらった。(文系でもあれだけ数学が悪いと二次配点の大きい大学は絶望的だ。)この経験から私が学び生徒に伝えたいことがある。私が英語で教えたいことに『努力は人を裏切らない。』ということもあるのだが、『こだわりは苦痛なき努力である。』ということもある。どの教科に関してもそうだと思うが、英語は特にそうだと私は確信している。私もこんなに英語が好きになるとは思っていなかったし、急激に伸びると思わなかった。センター試験において得意教科があることはかなり大きな武器になる。それが私の場合、国語と英語(と化学?)だった。ここも数学同様に壊滅的だったとしたら、センター試験は 500 点にさえ届かなかったろうと思う。そしたら、私の人生も全く違ったものだったろう。ギリギリまでこうなるとわからないのであれば、やはりどの教科もある程度しっかり勉強すべきだろう。すでに得意教科がある人でも、さらにギリギリで伸びる教科があるかもしれない。妥協しないで勉強をするということは、やはり自分の可能性を見極めるという意味で非常に大事なことだ。短い教員人生だが、私が見てきた中での勉強ができる人の共通点を紹介したいと思う。

色々と経験から分かるのは、勉強ができる人間というのは、まず『俺に理解できない学習内容なんてあるはずがない。』とプライドを持つこと(=自分の可能性を信じる)、『なんでそうなるの?おかしくない?』とそうなる理由を強く欲すること、『あー。なるほど、俺が間違ってた。』と自分の間違いを素直に認めること。そして目標と決心があること。

私はたまたまかもしれないが、センター試験は一度だけの受験で済んだし、教員養成系の学部・学科は最初から文系理系を区別しないので、文転しての受験も全く問題がなかった。極論を言って仕舞えば、教員のような資格・免許を取得して各組織の採用試験を突破すればいい職種なら、大学なんてどこでもいい。だが結局、『どこでもいいのか!』と実際にそうしてしまう人は、単位を落とす、資格が取れない、採用試験に受からない…などということになりやすいのは世の常だ。やはりできる限り志は高い方がいい。しかも、それなりの大学にはそれなりのコネやパイプがある。私の兄の例を挙げる。兄は大学時代に放送サークルに入っていたが、OB に某大手通信キャリアの社長がいるようで、『この間遊びに来た。』とか、『サークル活動を支援してくれている。』などと言っているのを聞いたことがある。大手通信キャリアの社長が道楽だけでこのようなことをするとは思えない…その会社に入っていった先輩もいるという。こういった現状をうまく活用し、人脈を作っていくのも処世術だと思うし、人を裏切ったり、法を犯したりしない限り自分の夢のためにありとあらゆる手段を取ることは許されるだろう。もちろん、実力をつけることが手っ取り早いし、その能力でまずはその地位を勝ち取るべきだ。

話が長くなったがまとめれば…夢を叶える原動力は、まず自分の可能性を信じることで、それができなければ達成が難しい夢は叶わない。同様に可能性を諦めた教科は当然伸びない。何と無く・妥協では絶対に人は成長しないし、60 に目標を設定して 60 ぶんの努力をしても、60 には届かないことがほとんどだろう。そうなのであれば、駆け抜けるように学生生活を全力で送るべきだ。(もちろん学生の本分の勉強を中心として。) 80 をめざすのであれば、まず 100 を狙ってみて、そのうちのどれくらいを自分は達成できるのかを知ること。常にそれを実践していれば、きっとやりたいことが見つからなかった人間も、進むべき方向が見えてくるかもしれない。



【京都寄帰内法伝】 5組1班 K. D、 A. H、 I. H、 文責 E. S

まず僕達は金閣寺に行きました。教科書でしか見たことのない生の金閣寺は…いや～いいですね。



金ピカでした。そして写真を撮ろうとしたのですが、人がごった返して、恥ずかしがり屋の僕達は頼めずにいました。その時！Kくんが外国人(おそらくアメリカ人?) のところに行ったんですね。

「Please take a picture ?」いいぞ！K！イケメン！

お昼ご飯は祇園で食べました。皆で湯豆腐御前を頼んだのですが、お店の人の京なまりが上品でした。きっと京都って言ったら舞子さんが思い浮かぶと思うんですけど、着物着てる人ってほとんど旅行で来た人なんですよね。それくらいレアなんだと思います。

お腹が満たされた僕達は清水寺に行きました。ところで皆さんよく「清水の舞台から飛び降りる」って言葉聞くとと思うんですけど、実際どうなの？って思ってネットで調べてみました。(意味は思い切って大きな決断をすることのたとえらしいです。) 高さは12m、ビルの高さ4階に相当するらしいです。江戸時代に願掛けとして飛び降りるが流行ったらしく、当時は木々や軟らかな土のおかげで生存率は約85%だったそう。あれ以外に？なんて思っちゃいますね。命が助かれば願いが叶う。なんともハイリスクハイリターンなんでしょうね。横山先生！今度一緒に飛び降りに行きましょう！ おわり

昔、清水の舞台から飛び降りるがごとくの「無謀な挑戦」を何度もしました。E.S. 君にもきっとそんな日が来るよ。By Y山

自主研修 清水寺担当

3組担任 芳賀有美子

私にとって、自分の高校の修学旅行と、修学旅行の引率、そして今回の研修合わせて7回目の奈良・京都でした。どの学校でも1日～2日の自主研修がありましたが、清水寺だけは定番中の定番ということで、「最終日に学年全員連れていくから自主研修では行かなくてよい、、、」ということになっていました。というわけで、毎度毎度欠かさず行っていた清水寺です。



さて、今回、やはり京都に向かう班が多いということで担任団5人で京都の5か所を分担することになりました。今回引率した担任団の中で横山主任を別にして一番年〇の私ですからいち早く川原吹先生が希望を聞いてくださいました。今まで何回も行った清水寺に私は自ら行くことに決めました。

理由は3つです。

一つ目。地主神社で縁結びのお願いがしたかった。優しくて、家事ができて、言うことを聞いてくれるダンナさんが見つかりますように。娘たちに。

二つ目。(この辺から真面目です。) 清水から眺める京都の景色は最高！！紅葉のシーズンだったらなおさらね。

三つ目。(これが本命中の本命。) 清水寺に通じる坂を歩きたかった！！ 実は、今まで歩いたことがなかったのですよ。6回も行ってたのに。なぜなら、修学旅行で集団で行く時は、だいぶ上の方までバスで送ってもらうからです。そして当然、自由時間も少なく、清水に通じる数多い坂にあるお店で休憩♡とか、ショッピング♡とか、和歌を詠んでみる♡とかする時間なんてとてもとてもなかったのです。

ということで、今回の私の自主研修は、7回目の京都・清水寺だったんですが、三年坂とか茶碗坂初体験でした！！ 売っている小物はきれいがかわいらしくて見ているだけで女子力が上がった気分です。竹久夢二カフェなるものも発見しました。京料理のおいしいそうな店もたくさんありましたね、(My Wayにも書きましたが豆腐料理食べました)。

そしてもう一つ初体験。京都一人歩き。高校の時はもちろんグループでしたし、引率の時も何人かの先生たちと一緒に行動していましたから。誰かと一緒だと気持ちを共有できていいけれど、一人で知らない町並みを気ままに歩いてみるのもよい経験でした。

(その日はとてもよい気分で大阪に戻りましたが、

帰ってきてから足が筋肉痛になったのは言うまでもありません。。) 以上、私の自主研修でした。

ちょっとだけ理数科のことを

文責 横山

ここのところ「普通科」キャリア研修一色の学年通信なので、「どうせ俺らは関係ないよな」という冷めた(ひねた?) オーラが「理数科教室」から出ているような気がするの、少し褒めたいと思います(?)。実は、なんと彼ら彼女らは出発の朝、米沢駅に見送りに来てくれたのです(証拠写真→) 中には「スーツケース持参」で来た生徒もおり、危うく新幹線に乗せそうになってしまいました。理数科の「ウケのためなら労力を厭わない精神」は脈々と受け継がれていますね。さらにですよ。応援団長のT君が駅前広場で「エール」を切ってくれたのです。



私は感動しましたね。さらにこれだけじゃないんです！(TV通販みたい?) 彼らは「線路脇の土手」から「つばさ」に向かって手を振ってもらったのです。私、泣きそうになりました。君達って一体何者？

出発の日、大阪から山口大輔先生に電話したところ「中間発表会に向けて理科室で実験しています」とのこと。もう夜の9時です。つまり朝見送ってから、ず～～～っと学校にいたのですね。その根性にも感動しました。普通科のいない水曜日は中間発表会。どの班も素晴らしい研究・発表だったそうです。3チームが優秀賞となったとお聞きしました。東北や全国発表会も頑張ってください。

研修から帰ってきた翌朝、普通科の教室が妙にキレイなことに気がつきました。聞くと「妖精が現われた！」らしく、その妖精達は普通科教室の整頓をしてくれたそう。おそらく理数科の妖精と妖怪の皆さんの仕業でしょうね。こんな素敵な話、私は聞いたことがありません。ありがとう。色々と言われる？理数科だけれど大丈夫。君達は世界中どこでも生きていけますし、誰もが応援してくれるはず。

さて、14日の今日は「城戸淳二塾 専門研究成果発表会」が山大工学部で行われました。塾生であるH. S君、T. Mさん、W. Cさん、S. Y君、S. H君、S. K君(彼は理系)の6人が「英語」で発表を行いました。質問や解答も全て英語です。英語検定4級を3回受けて合格しなかった私は「すごい！」と感動しました(写真はS. H君→)



このように彼らは、普通の高校生のレベルをはるかに超えた学びを実践しています。これが連綿と受け継がれてきた「米興理数科」であり、それがSSHパワーでさらに加速しています。来年2月には台湾研修もあり、3月には科学の甲子園全国大会に出場します。理数科は日々ニュースと笑顔に溢れています！ ちょっと褒めすぎ！？ 終